

新戦力の台頭で王者の風格
2年連続で優勝

一関修紅高校 男子バレー部

奥州市で開かれた県大会。盛岡南との決勝戦で最後の1点が入り、選手がコート中央で手を突き上げ、喜びを爆発させる。修紅の優勝の瞬間だ。

1セット目こそデュースに持ち込まれたが、2セット目は早いスパイク、高いブロック、そして粘り強いレシーブで安定した試合運び。主導権を渡さず、2年連続で頂点を極めた。エースの仲村颯(3年)君は「全員バレーで最高の試合だった」とうれし涙を拭いた。



高さと速さで圧倒した



連覇を果たし、歓喜の修紅男子バレー部

年の春高バレー出場までは、順風満帆だった。しかし、今年の新人戦。ベスト4に終わり、王座から陥落。主将の八重樫侑君(3年)は「悔しかった。あらためて全国に行く」とみんなで誓った」と振り返る。

八重樫君は「バレーだけでなく、生活面でも基本的なことができて初めて全国に行く資格がある」と監督の言葉に耳を傾けてきたと言い、「最高のチームメイト、県内一番のチームワーク」と自負する。

監督の高橋昇禎さんは「全国までに基本を徹底したい」と8月に開かれる大会を見据える。

男女とも頂点
女子は25連覇の金字塔

一関第二高校 フェンシング部

4年ぶりに優勝を決めた男子。25連覇を達成した女子。高総体フェンシング競技は、一関第二のアベック優勝で幕を閉じた。



集中力を高め練習に励む

振り返る。全国大会の目標は「もちろん優勝です」と迷いはない。「指導してくれる先輩たちにも恩返ししたい」と応援してくれる人たちへの感謝も忘れない。

男子は北上翔南との一騎打ちを5対3で逃げ切った。主将の大久保龍治君(3年)は、同校に入学すると決めたときから入部を決意。フェンシングは無駄な動きをしないことが上達のこつといい、「効率的に動くことが勉強や生活面にも役立つ」と話す。「初の全国大会。この仲間と出場することが楽しみ」と笑顔を見せる。大久保君も「目標は日本」と言い切った。

個人戦にも男女合わせて5人が出場する同校。2年後のいわて国体も見据える。

試合時間は、3分間。1秒も気の抜けないこの競技。練習会場には大きな声が響き渡り、大きな目標に向かう部員たちの熱の入った練習が続いている。



男女とも全国制覇が目標の一関第二フェンシング部

目指すは夢の大舞台 僕らの熱い夏が来た

熱闘 Summer 2014

今年も高校生の熱い戦いが繰り広げられている
岩手から全国に挑む選手をクローズアップした

Pick-Up

打つ手は無限
8年ぶりに王座奪還

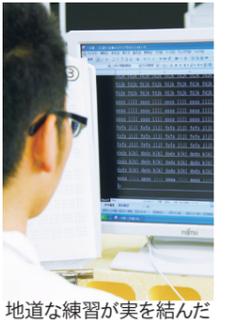
大東高校 ワープロ部

大東高校ワープロ部は、5月24日に盛岡市で開かれた県高等学校ワープロ競技大会で8年ぶりに県王座を奪還した。

同大会は、課題として出される文章をワープロで10分間打ち込み、早さと正確さを競う。各高校がエントリーする選手の上位3人の合計点で争われる団体の部と個人の部がある。打ち込んだ字数がその



基礎練習を重ね、栄冠をつかんだ大東高ワープロ部



地道な練習が実を結んだ

まま点数となり、誤字などは1文字につき、10ポイント減点される。人一倍の集中力と訓練が必要な種目だ。

個人の部で1位となった伊藤修平君(3年)は1875点。A4用紙2ページ半を打ち込んだ。さらに2位の及川涼一君(2年)が1708点と両エースがチームを引っ張り、大東高は4912点を獲得。2位の盛岡商業に400点余りの差をつけ、堂々の1位に返り咲いた。

伊藤君は「中学ではソフトテニス部。高校では違うことをして結果を残したかった」とワープロ部の門をたたいた。同級生の部員はいなく、「一人でくじけそうなこともあったが、結果を残せてうれしい」と話す。

県内3冠達成
激戦制し5回目の女王に

一関学院高校 女子バスケット部

5月26日に行われた県総体で学院女子バスケット部は、3年ぶり5回目の女王に輝いた。

決勝の相手は、盛岡白百合。10回連続の顔合わせ。宿命のライバルだ。スコアは78対69と終盤、激しい追い上げにあいながらも、逃げ切った。

母校を率いて23年目の山田繁監督は「大会直前にけが人が出て心配したが、踏ん張った」と選手たちをたたえた。

主将の高橋彩さん(3年)は、花巻市出身。小1からバスケットを始め、中学卒業後、学院高校に入学。毎日、電車通学をしている。始発の電車に乗り、帰りは夜の10時を超えることも。「相手に勝つことも大事ですが、自分に勝つことがもっと大事」と部活と勉強の両立に努めている。「自分が大きな声を出し、指示を出すこと」でチームをまとめる。



心一つに全国での飛躍を目指す学院女子バスケ部

追い上げられた試合もあり、甘さが出ました」と振り返り、「このチームで行く初めての全国大会。目標の16強を目指して、がんばりたい」と力を込める。

今年のチームは、平均身長160センチほど。長身選手が多いバスケットボール界では、小柄だ。「機動力が今年の特徴」と山田監督が話すように、とにかく走って、パスをつないで勝ち上がった。

これで昨年12月のウインターカップ、1月の新人戦、そして今大会と年度をまたぎ、県内3冠を達成。40人の部員は、夢の舞台での飛躍を誓い、練習に励んでいる。

手に入れた
全国への切符
次に目指す
全国での栄冠
個人種目で全国への切符を
勝ち取ったアスリートたち

岩手県優勝
体操女子
個人総合
得意の床運動で
得点を伸ばし、
上位を狙いたい。
Numakura Saori
一関学院1年 沼倉沙織

岩手県優勝
柔道女子
78kg級
初出場のインターハイ。どこまでやれるか試したい。
Sato Yumeko
一関学院2年 佐藤夢子

岩手県優勝
柔道女子
57kg級
柔道は、3歳から始めた。1つでも上を目指したい。
Sato Megumi
一関学院3年 佐藤萌実

岩手県優勝
柔道女子
52kg級
みんなのサポートでやってこられた。恩返しをしたい。
Sato Akane
一関学院2年 佐藤 茜

岩手県優勝
フェンシング
女子フルーレ
自分のプレーをして、思いっきり試合をしたい。
Chiba Akane
一関第一1年 千葉朱夏

岩手県2位
フェンシング
女子フルーレ
1戦1戦がんばって、決勝トーナメントに進みたい。
Ogawa Chihiro
一関学院1年 小川千尋

東北4位
陸上砲丸投げ
最後の夏。すべてを出し切り、記録にこだわりたい。
Kikuchi Itsuki
一関第二3年 菊池 樹